



発行 公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター

編集 広報編集委員会
武蔵野市中町 3-5-16
電話 0422-55-1231 (代)

URL <http://www.musashino-sc.or.jp/>

214(秋)号 もくじ

■新担当理事紹介..... 1

■就業体験記..... 2～3

■市内高齢者への提言..... 4

■私のふるさと..... 5

■武蔵野・ぶらり・時空旅..... 6～7

■ひろば、新入会員紹介、お亡くなりになった方、
編集後記..... 8

広報編集委員会 新担当のご挨拶

新編集担当です よろしく！

八幡町 理事 加藤伴子



こんにちは！
今回広報編集委員会担当になりました、八幡町の加藤伴子です。
きょうまで先人たちが作り上げてきた
会報制作を通して、皆さんのお力をいた
だきながら、一年間、仲良く楽しい委員
会を続けてまいりたいと思います。
どうかよろしくお願い申し上げます。

境 理事 加藤力弥



7月から「絆」の編集を担当させてい
ただくことになりました、境地区の加
藤力弥です。勤務した会社や関係した
労働組合で、社内報や機関誌の編集等
を経験したことから、今回、「絆」に関
わることとなりました。「絆」は、皆さま方とセンター
をつなぐ「架け橋」だと思っています。情報「発信」
だけでなく、皆様方からの情報「受信」も心がけるべ
く、感度のアンテナを高く張り巡らして、少しでもお
役に立てればと思います。よろしくお願いいたします。

吉祥寺南町 理事 小坂 強



この度、広報委員になりました小坂
です。吉祥寺南町に住んでいます。
「絆」を通して会員の皆様とお近づき
になれたらと、うれしく思っておりま
す。子供のころから本が好きでしたの
で、委員会の皆さんと力を合わせて仲良く頑張りたい
と考えております。私は現役時代には印刷関連の仕事
をしておりました。年史編纂室などの部署にいたこと
もあるので、忘れていたノウハウを思い出し、お役に
立てればと思います。

令和元年6月定時社員総会後の新しい担当理事が決まりました

役職	氏名	新・再	地区	部会・委員会他
会長	加藤 之義	再任	境南町	
副会長	田中 雅子	再任	吉祥寺北町	
常務理事	盛田 隆平	新任		
理事	森安 東光	再任		武蔵野市健康福祉 部長
理事	篠原 尉浩	新任	吉祥寺東町	総務部会、就業開 拓委員会
理事	小坂 強	再任	吉祥寺南町	総務部会、広報編 集委員会
理事	山岸 省一	新任	御殿山・ 吉祥寺本町	総務部会、研修委 員会
理事	小野 千鶴子	再任	吉祥寺北町	事業部会、SC魅 力化委員会、研修 委員会
理事	立松 正通	再任	中町	運営会議、事業部会、 SC魅力化委員会、 適正就業委員会
理事	安達 勝	再任	西久保	運営会議、総務部会、 SC魅力化委員会、 適正就業委員会
理事	宮本 雄一郎	新任	緑町	事業部会、研修委 員会
理事	加藤 伴子	再任	八幡町	総務部会、広報編 集委員会
理事	今井 宏美	再任	関前	総務部会、適正就 業委員会、安全管 理委員会
理事	加藤 力弥	新任	境	事業部会、広報編 集委員会
理事	高木 攻	再任	境南町	事業部会、適正就 業委員会、就業開 拓委員会
理事	内山 光男	新任	桜堤	事業部会、安全管 理委員会
監事	中野 菱子	再任	吉祥寺南町	
監事	永井 雄太郎	再任		公認会計士

就業体験記

学校開放施設管理に従事して

吉祥寺北町 森田 節男

平成26年から、本宿小学校の開放施設管理の仕事をしております。初めは地下1階から地上4階まで校舎内をくま無く巡回するのが、これまでの運動不足の私にはかなりハードな仕事でしたが、慣れてくると苦では無くなりました。

巡回していて色々気付くことがあり、窓や鍵の閉め忘れ、エアコンの消し忘れなどが多い教室と、全く不備のない教室があり、先生の性格に拠るものと思われました。しかし、先生という職業はつくづく大変だなと感じます。毎日遅くまで残って仕事をしている先生もおられます。性格の異なる大勢の生徒さんを相手にしながら皆から慕われている姿を拝見すると、頭が下がります。

開放施設を利用する団体さんも色々あります。中には多少時間にルーズな団体さんもありますが、皆さん良い人たちばかりで、お陰でトラブルも無く、沢山の人たちとお話する機会が増え、良い経験が出来たと喜んでいます。

筆耕班

西久保 益子 昭子

昨年暮に筆耕の講習会募集があり、シルバー人材センターに入会して間もない私でしたが、以前より興味があったので、早速講習を受けさせていただきました。

半月程の講習で何十年ぶりかの勉強にとまどいながらも、基礎から学び、終了の日にはめでたく1枚の賞状を書き上げる事が出来ました。この講習会のすべてが私には新しい発見でした。

＜筆耕の講習で学び感じたこと＞

- ・感謝状や卒業証書、表彰状などの賞状書きが主な仕事、ハガキや宛名書きもある。
- ・お習字や書道とは異なる実用書技を学ぶ。
- ・筆耕を通して、多くの他市の仲間と出会え武蔵野市の良さを再認識できた。
- ・年齢に関係なく、努力次第でいくつになっても続けられる仕事である。

正確さと丁寧さを求められる事で、ある面、緊張感と細かい神経を使う仕事ではありますが、仕上がった時、依頼者の方に喜んでいただけることが一番の幸せです。これからもシルバー人材センターの一員として、少しでも皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

小物班

緑町 中野 英子

私たち手芸小物班は、現在17名の会員が毎週水・木曜日にセンター第一会議室で、各自作品を製作しています。出来た作品は、毎月2回、市庁舎前と月末センターのホール、桜まつり、青空市で販売して、私たちの大きな励みになっています。

7月に新宿シルバー人材センターを視察し常設の販売所、手芸講習会、オリジナル作品等の活躍を見学し、大いに刺激を受けて来ました。8月には、毎年皆様からいただいたタオル等で、雑巾を作り、市内の小学校へ寄贈させていただいています。この時は作業を分担し、2,000枚程の雑巾を和気あいあいと楽しく作ります。それが終わると、来年の干支飾りの製作になります。同じ型紙を使って作るのですが、各自個性が出て面白い作品に仕上がります。

手芸好きの方、見学にいらっしやいませんか？ 新しいメンバーの入会を楽しみにしています。



パソコン教室では

吉祥寺南町 金子 隆司

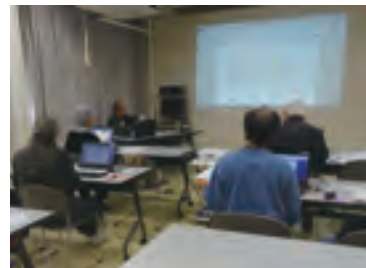
懇切丁寧をモットーにパソコン教室の活動を講師8名で行っています。男性が6名、女性が2名、就業年数は2～8年と、多彩ながら、和気あいあい、お互いに情報交換しながら、楽しく就業しています。

以前はワードやエクセルなどの講習が多かったのですが、最近は受講者の求める内容が多岐にわたって来ましたので、いろいろな質問にお応えする個別指導を充実させています。またスマホに関する相談も増えてきましたので、スマホ講習を検討しています。

毎月の初めにパソコンやスマホの無料相談会を開いていますので、ご活用ください。パソコンやスマホの悩みを解消して、その便利さや楽しさを体感しつつ学んで、シルバー生活を充実させましょう。

教室の講習予定はホームページで確認できます。ぜひお立ち寄り下さい、こちらです。

<http://www.musashino-sjcp.jp/pc/>



社会奉仕委員会に於けるボランティア活動について

西久保 佐藤 勉

(A) ボランティア活動紹介

武蔵野市立第五小学校の登下校児童の安全見守り、様々な犯罪を予防するため会員有志で、平成26年から登下校時に通学路要所3か所で見守り活動を始めました。

以後、学校休日以外はボランティア活動をしています。

1. 見守り内容

見守り場所を通学路上の西久保1丁目(1-22)、2丁目(2-21)、3丁目(3-15)と3か所で見守り活動を実施。

2. 見守り時間

登校時…7:45～8:15 下校時…一定では無いがおおよそ14:30～分散

3. ボランティア活動の参加人数および担当部署の決定

総勢約20人に対応 各メンバーは毎月活動可能日を自己申告し、最終的に担当理事が調整して、シフト調整表が作成され各メンバーに配付され、それに基づき活動します。

(B) 実際の活動状況(2丁目体験記)

2丁目見守り場所は、狭い道3方向から児童が集結する場所で特に8時前後は大賑わいになります。加えて、五中の生徒、東学園の生徒、一般通行人、自転車、車が行き交い、緊張する時間帯です。

それでも、児童には「おはようございます!」「いってらっしゃい!」の声掛けをすると児童の方からも「いってきます!」と元気な声が返ってきます。気持の触れ合う瞬間です。見守りを始めたとき1年生だった児童が本年は6年生なり、来年は卒業を迎えます。

時の流れの速さを感じる次第です。

むさしのSCトピックス

7/24(水)「安全就業研修会」がありました。(保谷こもれびホール)

7/24(水) 植木班・器材点検が行われました。

9/2(月) 会員向け自転車無料点検がありました。

9/17(火) 安全就業パトロールが実施されました。

9/20(金)「令和元年度シルバー人材センター安全大会」が開催されました。
(東京しごとセンター)



安全就業研修会

市内高齢者への提言 会員の高齢者像

人は必ず生涯を閉じます。それまでいかに生きるかが問題です。

私も75歳を越え、終活の準備を進めようと考え始めました。

これは、今をより良く生きるための活動と考え、まず、身辺整理から始めることとしました。

私の親父は70歳、祖父52歳と若くして他界したので、私は75歳を過ぎた今、残りの人生をしっかりと生きたいと思うようになりました。

まず、関係している諸団体の整理から始めることにしましたが、引き継ぐ相手が皆高齢者でなかなか見つからないことが問題です。

最近の50代、60代の人は何かというとプライバシーを口に出します。我々世代のように労働組合があり、皆で知恵を絞り、皆で団結すれば、どうにかなるのではなく、今は、個人主義で一人一人が、社会と立ち向かい戦ってきた結果、会社を離れた後は、何もしないで自由に暮らしたいと思う人が増えてきていると思います。

また、高齢者社会が一段と進む中、人間関係が複雑、かつ希薄になりがちです。そうした社会のなかで孤立化している人を少しでも減らすよう、一人でも多くの人シルバーの仲間に入ってもらいたいことが重要と考えます。

シルバーの仲間に入ってもらうことは、難しいことだと思いますが、まず受け入れる側が、仲間と仕事をするのは楽しいものだとすることをPRしなければならないと考えます。

また、仕事を離れて利害関係のない仲間を作ることが重要と痛感しています。

一般には高齢者だといわれる人の中で、本人が高齢者だと自覚していない人が、多々いると思われます。

何をもって、高齢者と決めつけるのか理解できません。若い人の中にも、目的意識がなく、ただ、時の流れに従い、漠然と生活している人もいます。一方で、高齢者だと思われる人の中にも、元気に仕事もし、運動もしている人もいます。高齢者の自動車運転はダメ、何々をやってはダメだとか、無理な行動は控えなさいとか、やたらと規制する方向で物事が進んでいるように見え、不快感を覚えます。

人はそれぞれ、思考能力、運動能力、判断能力等、違いがあるので、年齢で差別するのはおかしいと思います。本人が高齢者だと自覚していない人たちを大いに活用して、元気な高齢者の「輪」を作ろうではありませんか。

話を戻し、私の終活は、関係している5つの諸団体の責務から離れ、最後に残った「ラジオ体操会」だけは私自身の健康増進とボケ防止を目的に連盟の企画・広報にかかわっていきたいと考えています。

また、身辺整理では、今使っているものを一度にではなく、毎日少しずつ片づけ、後で見る人が必要でないなら廃棄しやすいように整理したいと考えています。

関前 H.A



私がかかわっている「2019年夏休みこどもラジオ体操会」の一コマ（期間中参加者延べ5,406人）

私のふるさと

—— 第20回 神奈川県・横須賀市 ——

境

理事 加藤 力弥



★ちょっと前は、山口百恵の「横須賀ストーリー」やダウン・タウン・ブギウギ・バンドの「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」の流行歌で、そして最近では「軍港巡り」や「海軍カレー」で知られる横須賀市。今回登場いただく加藤力弥さんは、本人いわく「湘南シティボーイのなり損ない」だそうで、小さなころの思い出を話してくださった。

●江戸末期、横須賀は日本近代史の一角を占めた場所の一つでした。ペリー率いるアメリカ艦隊の黒船来航（久里浜に上陸記念碑あり）に、びっくり仰天した江戸幕府。例の「泰平の眠りを覚ます上喜撰（お茶の銘柄） たった四杯で夜も眠れず」というやつですね。横須賀を外敵から江戸の町を守るための最前線基地としました。それは明治維新後も引き継がれ、明治政府は天然の良港として、横須賀に海軍基地を置きました。以来150年、戦前までは日本帝国海軍の、戦後は米国第7艦隊の基地として、歴史を積み重ねてきました。

●日露戦争で東郷平八郎元帥が指揮を執った軍艦「三笠」は、記念艦として横須賀港近くに停留されています。今ではコスプレの名所となってしまいましたが、私の小さなころは、戦後荒廃した船体を復元した後で、時折遊びに行ったものです。そうそう、今や心霊スポットとして、そして仮面ライダーのショッカーの基地がある場所（テレビのお話です）として名高くなってしまった、東京湾唯一の自然島「猿島」も、整備されていなくて、探検ごっこをするのに恰好の場所でした。

★昔と今では随分と変わってしまったようですが、生まれ育ったのは、横須賀のどのあたりになるのでしょうか？

●結婚するまで住んでいたのは、横須賀の中心街から京浜急行で3駅離れた大津町というところです。ここは、坂本龍馬の奥さん・お龍さんの



新年の準備が整った大津諏訪神社

お墓のある信楽寺や、大津諏訪神社があります。長野の諏訪神社の分社で、令和5年に創立1200周年を迎える由緒ある神社です。数年前には御柱も立てられました。

8月には夏祭りがありますが、近郷近在の町から山車や神輿がたくさん集まって、夜店も出て、それはにぎやかです。諏訪神社なので、子供のころは土俵があって、大相撲の巡業もありました。

●両親ともだいぶ前に亡くなったので、既に大津の実家はありません。両親や祖父母の入った墓だけになってしまいました。実家のあった場所の前は、国道134号線をはさんで、今は運動公園になっていますが、かつては海軍の練兵場でした。防空壕が幾つもあった、子どものころはよく遊びました。戦前には、射撃訓練にも使用されていたようで、戦後間もない物資不足のころは、近所の人たちが薬きょうや弾丸を拾って、クズ屋（廃品回収業）に売っていたそうです。

●私は昭和27年生まれで、男ばかりの三人兄弟の末っ子なのですが、最近は兄弟もみんな歳を取ったので、気候の良い春と秋のお彼岸、それぞれの連れ合いと一緒に6人で集まって、両親の墓参りを兼ねて観音崎の海が見えるホテルで食事会をしています。



母親に抱かれた子供時代の加藤さんと家族

★ということで、隔世の感がある横須賀の今昔。今のお気に入りの場所は、日本最古の灯台がある観音崎の近くに最近できた横須賀美術館。近くに住んでいた谷内六郎さん描く「週刊新潮」の表紙画や、横須賀出身の画家の作品を中心に、展示されている。ここから見える東京湾は、今も昔も同じ景色、同じ潮の香りがしてくるそうだ。



目の前が東京湾の横須賀美術館

（聞き手 編集委員：高山）

武蔵野・ぶらり・時空旅**20**

吉祥寺北町 下谷 一廣

享保・武蔵野新田開発秘話 PART2**八代吉宗、大岡越前、川崎平右衛門、武蔵野の農民のドラマ**

「平右衛門 参上しました！」大岡忠相「平右衛門！急な呼び出しで相すまぬ」

「なにを仰せられます、日頃より上坂殿にはお世話になっており、先年栗林、竹林」とこまで言ったところで「平右衛門、今日は挨拶抜きじゃ！新田の状況を教えてくれ」と大岡が遮った。「お聞き及びとは思いますが、思いのほか悲惨な状況でございます、もともと武蔵野新田は土地が痩せておりまして肥料を大量に投下しないと作物ができない土地でございます。その上昨年来の天候不順で今年は秋になりまして何一つ収穫できるものは無いと思われまふ」と平右衛門。「それほどひどいか？」と大岡は眉をひそめた。平右衛門は膝を進めて「私が組頭、百姓代とともに村々を回りまして聞き取りをいたしました。新田には1370戸ほどの百姓が居りますが、逃散・潰れ百姓が161軒、今年、来年を自力で乗り切ることのできる百姓はたった35軒しかありません」

「なんとこのう・・・」大岡は溜息をついた。「差し出がましいお願いですがまずはお救い米を、いえ麦でよろしいのですがいただきとうございます。何とか百姓の暮らしが成り立つようにしたいのでございます」「相分かった、他に出来ることは？」

「上坂代官を前にして失礼とは思いますが、私には数年前から新田開発のお役に立てるかもしれない目論見がございます。もしお許し頂けるならば書面にいたしましてお届けいたします」「是非にも頼むぞ平右衛門！」こんなやり取りの後、平右衛門は帰って行った。役宅で大岡忠相と二人になると上坂政形は“ふうー”と息をついて「お奉行、やはり餅は餅屋ですね。私にはとても代官は勤められません。平右衛門を代官にして、手前を書役に戻して下され」と言って頭を下げた。「それはならん！もうしばらく代官を続けてもらう。今、平右衛門の品替え(身分を変える)の工作をしておるがうるさいのがおってのう、名主といえども百姓身分で代官というわけにはいかんのだ、しばし

待て」と大岡忠相は言った。

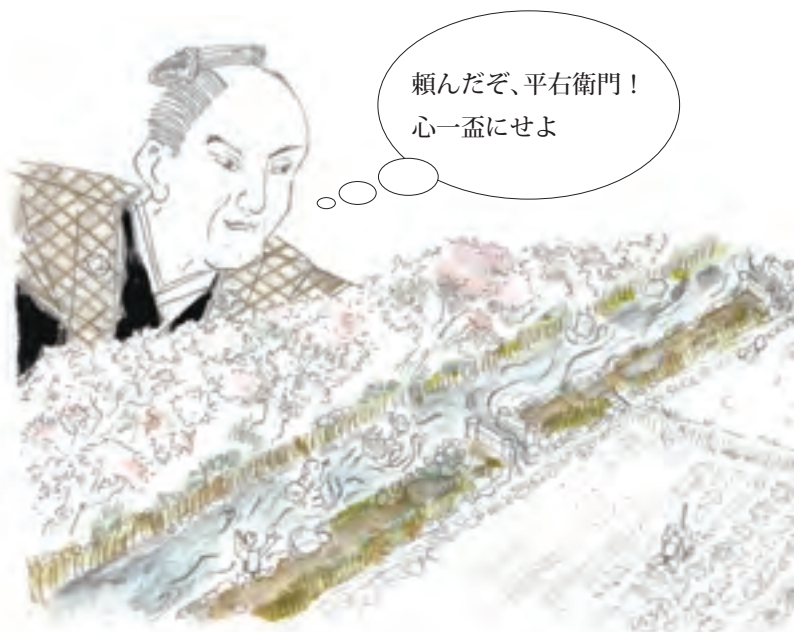
この会談から数日後元文3年(1738)雲一つない秋晴れの日、平右衛門の計画書が届いた。それは以下のようなものであった。

- 1、災害救助金として800両を(飢餓に瀕している百姓に供する麦購入代金及び各戸の状況に応じた援助金)大凶作に対する緊急対策費としてお願いしたい。
- 2、享保17年に貸付けられた残金1300両、に加えて4060両合計5360両を貸付けていただきたい。5年後から10年間で返済する。その間この金を江戸の商人に貸し付け1割の利子を取り、元金には手を付けず利子を畑養料として百姓に貸し付け百姓からの返済は麦や雑穀で返済させる。これを備蓄しいざという時に備える。
- 3、潰れ百姓や逃散した百姓でも開拓の意欲あるものは帰村を許し立ち返り料を支給し、新田開発の人員を確保する。これ以外にも平右衛門の提案は微に入り細を穿つものであったがここでは割愛する(絆200号の「武蔵野・ぶらり・時空旅7」に詳細)

いずれにしても平右衛門は百姓の世話をしながら自立を促し村の生活を立て直すことに全力を投入したのである。大岡忠相の強力な後押しがあったとはいえ、この案が吉宗、幕閣から承認され、元文4年(1739)から実行されたのである。

同年2月には苗字帯刀を許され川崎平右衛門定孝を名乗る。

さらに8月には新田世話役を拝命し、実質的な



代官となった。この時平右衛門46歳。

寛保3年(1743)50歳の時に名実共に品替え^{*}が適い、支配勘定格を仰せ付けられ新田3万石を支配する。田中休愚の時以来、異例の抜擢人事であった。

寛延2年(1749)まで実質10年間武蔵野新田80カ村の開発の指揮を執った。

※品替え→農民身分から武士の身分に替わること

☆平右衛門のある1日

元文5年(1740)夏のある日関前新田(武蔵野新田のなかの一カ村)の組頭・七郎兵衛の土間に大勢の村人が集まっていた。そこに紋四郎が入ってきて「みんなよっちゃくて(寄り集まって)アーニはなしてるだあ？」と大声で聞いた。「オメエ知らねえのけえー、明日平右衛門さんが来て井戸掘るで、出来るだけ人足をだせちゅーとるで、その相談だべえー」「平右衛門さんてえーのは以前おらの家さ泊まって肥料のことや隣近所のようにすやらコマケーこと聞いていった人だすか」「んだ！井戸出来りゃたすかるべーよ、それに働けば麦(ムイ)さくれるとヨ」などと夜遅くまで話し合いが続いた。

翌朝、村人たちを前にして平右衛門が語りかける。

「皆の衆よく集まってくれた。今日からここに井戸を掘る、これからは飲み水に難儀することはなくなる。声を掛け合い、力を合わせて自分たちで井戸を掘るのじゃ、無駄な費えをなくしこの村で出来ることは自分たちで仕立てる。井戸掘りだけではないぞ！困ったときは寄り集まって話し合い知恵を出せ！よいな、さあ始めよう！」

村人たちが立ち働く様子を見守りながら平右衛門は時折指示を出す。土手道を足元をふらつかせ

ながら歩いてくる少女に声をかける「これ！おなご、担いでいるもっこを下ろせ！お前いくつだ？」「オレは12だども」「お前の体でもっこ担ぐのは無理じゃ！あそこへ行って子守の役をせよ」「でも・・・」「なぜ無理をする？お前が体を壊したら皆に迷惑をかけるのじゃぞ！」「明日は庚申様の日で、オバアに米の飯さ食わせたかったけえー」「そーいうことか、今回だけはおまえの孝心に免じて“褒美札”を渡してやるが次にやったら罰するぞ、よいな！」

(注)札には仁、義、礼、智、信の5種類があり

仁の札では麦3升、義は麦2升などとなっていて褒美札は特例で米1合であった。

平右衛門の百姓に対する一連の指導ぶりを見ていた大岡忠相は隣に立っていた代官・上坂政形に「のう、上坂！見事なものじゃのう。わしらも見習わねばならぬ。そちから平右衛門に“新田開発の儀 平右衛門の心一盃にせよ”と伝えよ」と言った。こうして新田開発は平右衛門の思い通りにやってよいということになったのである。

前述したとおり平右衛門は10年間にわたり武蔵野新田の代官として陣頭指揮を執り成果を収めた。新田開発の実績を評価された平右衛門は美濃国の代官に任命され、そこでの仕事ぶりも評価され石見銀山の代官を拝命するなど幕閣の信頼は厚く、晩年には老中支配の勘定吟味役にまで上り詰めた。名主とは言え百姓身分であった平右衛門が旗本として生涯、73歳で亡くなるまで役職を全うしたのは稀有のことである。

ちなみに平右衛門を顕彰する碑が全国に14カ所もあるということは人柄、実績が赴任する先々で認められたということに他ならない。

注：関前新田農民の会話は武蔵野方言で再現しました。

参考文献：前回と同じなので割愛します。

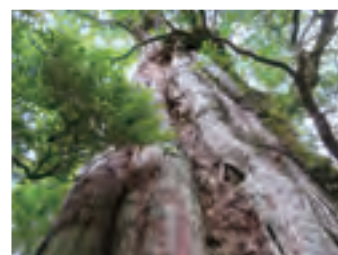


「紀元杉」との出会い ―― 屋久島旅行記 ――

まだ、九州に行ったことが無かった。この際日本最初の世界自然遺産の屋久島に行こうと思いたった。テレビ等の報道であったように大雨で5月のツアーは中止になったが、6月には天気も回復しツアーに参加できた。屋久島は普段でも年間降水量が多く、「1か月に35日雨が降る」と言われているそうだ。雨粒もラッキョウ位の大きさにバスの屋根に当たるとうるさいとか(バスガイドさん談)。

屋久島は鹿児島港から南に130kmで種子島の西に位置し花崗岩の隆起によってできた島で、島の90%は森林である。なおかつ1,000m以上の高峰が46座以上あり「洋上のアルプス」と言われている。また年平均気温約20℃であるが、山の上と平地の温度差が大きく、日本の北から南まで程の差があるため、植生は1,900種以上にのぼる。

屋久島といえば屋久杉だが、そのなかでも標高1,300mにある縄文杉が特に有名である。そこまでに行くのは登山口から片道11km約5～6時間の行程のため、体力を考慮し断念した。縄文杉の推定樹齢は2,000～7,200年と言われている。新鮮な水に恵まれ栄養が乏しい花崗岩の山地に育つ屋久杉は大変成長が遅く1年で1mmくらいしか幹は太くならないらしい。私たちのツアーはバスで行き駐車場から歩いてすぐの紀元杉を見たが、推定樹齢3,000年、胸高周囲8.1mの大きな杉であった。なお、植林され100年以下の杉は地杉、100～1,000年は小杉、1,000年以上の杉を屋久杉と呼ぶそうだ。自然の偉大さ、ゆっくりとした時の流れを感じた旅であった。



紀元杉



二代大杉

帰路、噴煙をあげている桜島が見えたが、ガイドの話では大した噴煙ではないとのこと。バスから見ると、歩道の隅の所々に黄色の袋が集められていた。それは、降ってきた火山灰を市から配られたその袋に入れ歩道に置いてあるもので、市が収集に来るとのことだった。自然の物もあたりまえの様に収集に来るのは、その土地で生活するためには当たり前の事なのだろう。

吉祥寺東町 吉田 暁

編集後記

米中貿易摩擦、日韓対立等、最近の社会事象を見ると、元をただせば人と人の対立、これは人類の有史以来、変わらない争いだと思います。恐竜は地球上で約2億年生存していたといわれますが、人間は争いの歴史を繰返し、反省をしては、また繰り返しているのが現状です。人類は2億年生存できるのか？ 人類は筆記媒体としてパピルスを使用してから半導体メモリーという膨大な記録媒体を保有し、情報を共有していることが、他の生物との違いで、この情報を利用して争いのない世に誘導できるのではと考え始めました。AI技術により実現されることを信じています。

H.A.